

## □■受験対策ミニ講座 8号 2019□■

先月の水害の傷が癒えない日々ですが、こんな時だからこそ、私たちは立ち止まることなく、しっかり足元を見据えて、前に進んで行かなければならないと思います。

前回とりあげた「主観的幸福度」の「主観」という言葉を辞書で引くと、「物事を考える心の動き」とあります。では「心」とは何か。このことを追求して20世紀に大きく発展したのが心理学です。国家試験では「心理学理論と心理的支援」という科目が2番目に登場します。

### 【28回 14 心理学理論と心理的支援】

心理療法に関して正しいものを1つ選べ。

- 1 自律訓練法は、筋肉を漸進的に弛緩させる技法である。
- 2 認知行動療法は、転移関係についての解釈と洞察が重要である。
- 3 家族療法のシステムズ・アプローチでは、家族間の関係性の悪循環を変化させる。
- 4 来談者中心療法は、夢分析を行い無意識の意識化を促進させる。
- 5 精神分析療法は、自己認知の変容のために認知再構成法を用いる。

正解と解説は最後に記載しています。

### ■Plus Column . . . . .

#### 【アインシュタインとフロイトの往復書簡】

3年ほど前に、『ひとはなぜ戦争をするのか』というタイトルの小さな翻訳本が日本で出版されました。著者は物理学者アインシュタインと精神分析の創始者フロイト。二人は共にユダヤ人で、同時代を生きた「20世紀の知の巨人」です。

第二次大戦直前の1932年、国際連盟がアインシュタインに「誰でも好きな人を選び、今の文明で最も大切と思われることについて意見を交換する」という企画を提案しました。当時53歳だったアインシュタインは、76歳のフロイトを選び「人間を戦争というくびきから解き放つことができるのか」と投げかけます。二人はこの直後にナチスの迫害を受けて亡命し、この書簡も戦争の嵐の中に埋もれていったそうです。

平和運動家でもあったアインシュタインの問いかけに、フロイトは精神医学者・心理学者として人間のもつ攻撃性や破壊欲動について語ります。その上で「文化の発展が生み出した心のあり方が人間を戦争をなくす方向に動かしていくことへの期待」を述べ、「文化の発展を促せば、戦争の終焉へ向けて歩み出すことができる」と結んでいます。

科学者として平和を追求したアインシュタインに対して、人間の心を追求したフロイトは「人間の心のあり方」、「文化の発展」という形で応じました。フロイトの書簡はアインシュタインの何倍にも及ぶ量で、ナチスの弾圧が強まる中、誠意をもって問いかけに応じたことが伝わってきます。

フロイトは生涯のうちに様々な研究を行い、多くの弟子たちがそれを発展させて、今日の心理学が築かれました。そしてソーシャルワークは心理学の知識や技法をとりいれながら発展してきたのです。改めて心理学の始祖としてのフロイトの業績を思い、この書簡にこめられた言葉の一つ一つをかみしめてみる必要があるように思います。

『ひとはなぜ戦争をするのか』（講談社学術文庫 ¥600）

### ■Back Number . . . . .

過去のバックナンバーはこちら→[http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page\\_id=2686](http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686)

#### 【28回 14：解説と正解】

心理療法は連続して出題されています。「相談援助の理論と方法」で問われるソーシャルワークの技法と関連付けて学習しておきましょう。

1× ジェイコブソンが提唱した漸進的筋肉弛緩法の説明です。

2× フロイトにより始められた精神分析療法の説明です。

3○

4× ユング派の分析心理学による心理療法の説明です。

5× 認知行動療法の説明

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus